

2016 年度 聖学院大学総合研究所〈児童〉における「総合人間学の試み」研究会 主催
第3回〈児童〉における「総合人間学の試み」研究会
坂本加代子氏による「知的障害者の生活の場-ホームレス支援を通しての考察-」報告



発題者：坂本加代子氏



2018年度4月より、児童学科は人文学部児童学科として新たなスタートを切ることが決定した。またこの改組に伴い、児童学科はこれまでの保育士資格課程、幼・小の教員養成課程に加え、特別支援教育教員養成課程の開設についても文科省に申請を行った。このような動きを踏まえて、学科の教員が特別支援教育を必要としている児童への理解を深めるべきであるという問題意識の下、今回は長年、日本の知的障害者福祉の最前線で仕事をされてきた坂本加代子客員教授を講師として、2017年3月15日に研究会を開催した。

研究会では、まず坂本教授の経歴が紹介された。坂本先生は高校2年の時に障害者福祉に一生を掛けることを決意、お茶の水女子大学・大学院での学びを経て、その後、障害者支援施設で知的障害

者のケアに従事。60歳を間近にして障害者支援施設を退職し独立型社会福祉士事務所を開業。以来、障害者の人権擁護や施設第三者評価などを行っている。聖学院大学への奉職は、自らの使命として後進の育成を考えたからとのことであった。

今回の研究について、坂本教授は次のように述べられた。ホームレス支援の概念は、福祉領域の中では確固たる一分野として日本の中で位置づきつつあるが、新宿区役所生活保護課内ホームレス相談所「とまりぎ」心理相談員や、埼玉県社会福祉士会ホームレス委員会巡回相談員等として、実際のホームレス支援に当たる中で浮き彫りになってきた事柄があった。それは、「学校卒業後の中・軽度知的障害者のかなりの人がホームレスになっているのではないか」という懸念である。この問題意識をもちながら、2009年からホームレスの調査・支援に関わり始めたことが説明された。

『平成28年版障害者白書』によると知的障害者の生活の場所は、知的障害者数74万1千人の内、在宅者数62万2千人、施設入所者数11万9千人であること。また、施設入所者の入所施設の分類は、障害者支援施設・グループホーム、高齢者施設、保護施設：救護施設・更生施設・医療更生施設・授産施設・宿所提供施設、婦人保護施設、母子生活支援施設、刑務所（従来型・社会復帰促進センター）、更生保護施設、精神病院に分けられること、そして、その他として「ホームレス」があることを指摘された。

坂本教授によれば、調査の中で出会ったホームレスの約50%が知的障害の範囲に分類される者たちであることが判明したということであった。では何故、知的障害者の多くが学校卒業後ホームレスとなっていくのだろうか。そのメカニズムについて、坂本教授は次のように説明した。

知的障害者に家族関係があり、家庭機能が稼働していれば、家族が中心になって本人の支援を行う。また、知的障害を有する本人の学籍が教育機

関にある間は、教師が留意して、本人への支援を行う。さらに学校卒業後も、本人が社会福祉（生活保護、障害者福祉）につながっていれば、役所が本人の生活について留意する。しかし、学卒後の職場を退職した後、定職が見つからないケースが多く、彼らはトラブルがあると解決しようとするのではなくその場を逃れる方向に動いてしまう。これらによって、知的障害者は社会から遠ざかっていく。また、家族が本人への支援を行う役割を果たせないでいる場合、本人は社会の中で生活することが困難になる。療育手帳を持たない、中・軽度知的障害者は、学校卒業後、家族以外支援者がいないことがほとんどである。そして「親亡き後」には家族関係が希薄化していくことも常である。中・軽度知的障害者が療育手帳を取得しない理由として、障害者と決められることを嫌っての場合もあれば、障害や制度を知らずに過ごしてしまった場合もある。学卒後、知的障害をもつ本人を気遣う人や機関がない場合、即、社会生活が破綻し、ホームレス、犯罪に結びついて行くケースが多い。周囲からの支援の手があれば、刑務所（従来型・社会復帰促進センター）に入らずにすむ知的障害者は少なくないと考えられる。

この意味からも知的障害者に対しては療育手帳の取得へ向けた支援が大変重要なことがらである。これを取得することによって、彼らは障害者総合支援法によるグループホームへの入居が可能となり、障害者総合支援法による就労支援事業所利用、企業への福祉的就労（障害者雇用）が可能となる。また、携帯電話・NHK受信料等々の減免等、さまざまな支援が受けられるようになり、知的障害者は社会の中で生きるすべを見いだせる。周囲からの理解や支援が得られることで、多くの知的障害者は、ホームレスとならず、住む場所（刑務所）を求めるが故の犯罪にも手を染めずに生活できるようになる。

このことを世の人々はもっと知るべきであり、私たちもそのことを覚えこのことを広く社会に啓

発するべきであることを坂本教授は強調され、本研究発表のまとめとされた。

研究会日時：2017年3月15日 午後1時～3時
会場：4号館4階第二会議室

（文責：小池茂子〔こいけ・しげこ〕聖学院大学人間福祉学部児童学科教授）